2018 年 6 月 26 日

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

バンク・セントラル・アジア（BBCA）

2018/12 期 1Q（1-3 月）は新タイプのローン導入などで増益、マルチチャネルによる経営資源配分の効率化に期待

インドネシア | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG BBCA:IJ | REUTERS BBCA:IJ

- 2018/12 期 1Q（1-3 月）は、正味受取利息が前年同期比 7.0%増の 10 兆 7,810 億 IDR、非金利収入が同 13.5%増の 3 兆 8,960 億 IDR、純利益が同 10.4%増の 5 兆 5,080 億 IDR であった。
- 純金利マージンは低下したものの、住宅ローンの新商品の導入などにより貸出残高が伸び増収となった。非金利収益も好調だった。
- 取引数の 97%がデジタルチャネルで行われたが、取引金額ベースでは営業店取引が 55%を占めた。マルチチャネルによる効率改善へ。

What is the news?

2018/12 期 1Q（1-3 月）は、貸出利鞘にあたる正味受取利息が前年同期比 7.0%増の 10 兆 7,810 億 IDR、非金利収入が同 13.5%増の 3 兆 8,960 億 IDR、税引前利益が同 8.6%増の 7 兆 790 億 IDR、純利益が同 10.4%増の 5 兆 5,080 億 IDR となった。強い借入需要や積極的なプロモーションにより、貸出残高が同 15.0%増の 470 兆 1,570 億 IDR と伸びた。純金利マージン（NIM）は 6.06%と前年同期の 6.32%から低下したが、乗り越えた。個人向け貸出の 58.1%を占める住宅ローンが同 10.1%増の 71 兆 9,530 億 IDR と貸出残高の伸びを牽引。2018/2 に当初固定金利で、一定期間経過後に上限付き変動金利に変わる新しいタイプの住宅ローンの提供を開始したことなどが寄与した。2 年までは基準金利 5.61%の固定金利、3 年目以降は 6.61%の上限付き変動金利と、歴史的に低い金利水準で設定している。非金利収入は、受入手数料が同 12.2%増の 2 兆 6,710 億 IDR と堅調だったほか、MTM 損益が同 26.2 倍の 3,400 億 IDR と大幅に伸びた。自己勘定損益は同 85.3%減の 340 億 IDR、有価証券売却益が同 5.2%増の 2,040 億 IDR、その他が同 5.5%増の 6,480 億 IDR であった。

2018/3 末時点の資産の概況は以下の通り。貸出先別の貸出残高は、大企業向けが同 17.6%増の 179 兆 4,060 億 IDR で全体の 38.2%。中小・零細企業向けが同 14.4%増の 166 兆 7,070 億 IDR で全体の 35.4%。個人向けが同 12.0%増の 123 兆 9,390 億 IDR で全体の 26.4%であった。個人向けのうち、住宅ローンが 58.1%、自動車ローンが 32.4%、クレジットカードが 9.5%であった。グロスの不良債権比率（NPL）は 1.5%と前年同期から横ばい。預金残高は同 9.0%増の 583 兆 5,190 億 IDR である。

How do we view this?

同社は、マルチチャネルのトランザクションバンキング・ビジネスへの移行を図っており、費用の高い営業店取引からデジタルチャネルへの移行を促している。取引数の 97%がインターネット、ATM、モバイルバンキングなどデジタルチャネルで行われた一方、営業店取引はわずか 3%であった。しかし、取引金額ベースでは営業店取引が 55%を占めており、マルチチャネルにより経営資源配分の効率化が進んだと言えよう。2018/12 通期の市場予想は、純利益が同 11.2%増の 25 兆 9,190 億 IDR。

業績推移　※参考レート 1IDR=0.0077円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
当期利益(十億IDR)	18,018	20,605	23,310	25,919	29,154
EPS(IDR)	731.00	835.76	945.00	1,055.17	1,185.40
PER（倍）	30.37	26.56	23.49	21.04	18.73
BPS(IDR)	3,624.80	4,560.25	5,325.63	6,081.47	6,891.64
PBR（倍）	6.12	4.87	4.17	3.65	3.22
配当(IDR)	60.00	200.00	255.00	278.19	338.47
配当利回り（%）	0.27	0.90	1.15	1.25	1.52

（出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想(IDR)	278.19	（予想はBloomberg）
終値(IDR)	22,200	2018/6/25

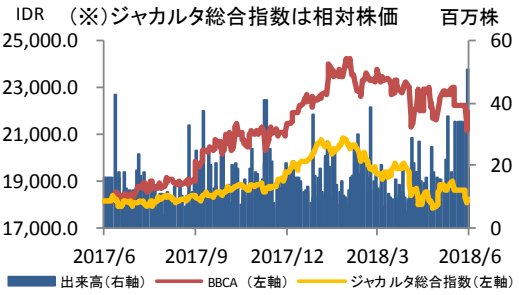
会社概要

1957年設立したインドネシアの大手商業銀行の一つ。1998年のアジア通貨危機の際、国有化され、インドネシア銀行再建庁（IBRA）のもと資本増強・リストラに取り組んだ。その後、2000年に再上場を果たした。トランザクションバンキングに重点を置いており、大企業、中小・零細企業、消費者向けに貸出など金融サービスを提供している。2018/3末時点で、1,236の支店、17,624のATM、499,000を超えるEDC、24時間対応のインターネット・モバイルバンキングシステムを展開する。

主要な子会社には、香港で金銭貸付や送金を行うBCAファイナンス、シャリアバンキングを行うBCAシャリアバンク、有価証券の委託売買、引受・売出しを行うBCA Sekuritas、主に損害保険を手掛けるBCA Asuransi Umum、運転資金ローンや多目的ローン、オペレーティング・リースなどを提供するCentral Santosa Finance、ベンチャーキャピタルのCentral Capital Venturaなどがある。

企業データ（2018/6/26）

ベータ値	0.95
時価総額（十億IDR）	545,492
企業価値=EV（十億IDR）	-
3ヵ月平均売買代金（十億IDR）	352.6



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2018/6）

	（%）
1.PT DWIMURIA INVESTAMA ANDALAN	54.94
2.Salim Anthoni	1.76
3.Vanguard Group Inc	1.67

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

アナリスト

増渕 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp

+81 3 3666 0707

庵原 浩樹

+81 3 3666 6980

hiroki.ihara@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103―0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号
TEL:03-3666-2101 URL：http：//www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増渕 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項＞
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。